

平成22年6月18日現在

研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：平成18年度～平成21年度  
 課題番号：18520045  
 研究課題名(和文) 十二世紀末までの日本仏教各宗にみられる新羅・高麗仏教に対する認識に関する研究  
 研究課題名(英文) The Study of Silla and Koryo Buddhism Cognition in Japanese Buddhism Through the Late 12<sup>th</sup> Century  
 研究代表者  
 福士慈稔(フクシジニン)  
 研究者番号：80250041

研究成果の概要(和文)：高麗及び日本の章疏目録の整理により、各時代の目録に収録された朝鮮章疏の実数、日本各宗に重用された朝鮮章疏、及び新出の朝鮮章疏を明らかにし、その上で日本各宗諸師章疏の新羅・高麗章疏の引用整理を行い、各宗の新羅・高麗仏教認識を窺った。結果として、三論宗では9世紀の願暁1人が元暁、憬興、勝莊、円測、太賢等の新羅章疏を中国章疏と同様に重用しているが、三論宗全体としては、吉蔵三論学の解釈を旨としているため元暁・太賢章疏以外は注目していなかったことが明らかとなった。法相宗では善珠が中国の基や慧沼章疏に次ぐ2次資料として新羅章疏を肯定的に引くが、善珠以降の法相宗諸師は新羅章疏を批判の対象として捉えていたことが明らかとなった。天台宗では新羅諸師の法華経関係章疏への関心はないが、新羅での密教隆盛という認識と共に天台密教相承系譜上に存する新羅密教僧に対する敬意が窺えること、また新羅で基法相学と異なる玄奘系法相学が隆盛していたと捉えていたことが明らかとなった。真言宗では他宗と比べて新羅章疏の引用が少ないこと、空海入唐時に中国で活躍していた新羅僧がいるにも拘わらず新羅密教僧を黙殺し、その他の新羅章疏にも関心を抱かなかったことが明らかとなった。華嚴宗では8世紀の寿霊が中国章疏と同様に新羅章疏を重用しているものの、寿霊以降は法藏章疏研究が盛んになると共に新羅章疏に対する関心が少なくなっていくことが明らかとなった。また律宗では12世紀末までは新羅章疏の引用が皆無であることが明らかとなった。しかし、華嚴宗、律宗、及び他の日本各宗でも13世紀から戒律研究及び自宗所依経論章疏の再研究が活発となり、それに伴い新羅章疏に対する再評価が行われたことも明らかとなり、日本各宗の朝鮮仏教認識を明確にするためには、13世紀以降の日本章疏研究が必要であることも明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
21年度	800,000	240,000	1,040,000
20年度	700,000	210,000	910,000
19年度	700,000	210,000	910,000
18年度	1,200,000	0	1,200,000
年度			
総計	3,400,000	660,000	4,060,000

研究分野：東アジア仏教

科研費の分科・細目：哲学・仏教学

キーワード：日本仏教・新羅仏教・高麗仏教・章疏目録

### 1. 研究開始当初の背景

2001年に韓国・円光大学校に博士学位請求論文として『元暁著述が韓・中・日三国仏教に及ぼした影響』を提出し、2003年に平成15年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の支給を受けて『新羅元暁研究』を出版した。それ等の作業中に本研究「十二世紀末までの日本仏教各宗にみられる新羅・高麗仏教に対する認識に関する研究」の必要性とその意義を確信した。

### 2. 研究の目的

十二世紀末までの日本仏教各宗(三論宗・法相宗・律宗・華嚴宗・天台宗・真言宗)の新羅・高麗仏教に対する認識と、日本仏教思想史に於ける十二世紀末までの新羅・高麗仏教の影響を明確にすることである。

### 3. 研究の方法

日本及び韓国内の章疏目録の整理から新羅・高麗諸師章疏を確認し、更にそれ等諸師章疏の現存書と散逸書の区分を明確にさせ、その上で日本各宗の活字化された12世紀末までの章疏を、宗派毎に新羅僧・高麗僧に対する記載と新羅・高麗章疏の引用を整理し、宗派毎の新羅・高麗仏教認識、及び影響を明らかにした。

### 4. 研究成果

研究成果としては韓国での発表を含め11回の学会発表、及び13本の学術論文で、12世紀末までの日本各宗の新羅・高麗仏教認識及びその影響に関して明らかにしている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

福士慈稔「十二世紀末までの日本天台宗の新羅仏教認識について」(『印度学仏教学研究』58-2、日本印度学仏教学会、2010年)

福士慈稔「日本三論宗と新羅仏教」(『印度学仏教学研究』57-1、日本印度学仏教学会、2008年)

福士慈稔「目録類からみる日本に於ける朝鮮仏教の影響と問題点」(『印度学仏教学会』56-2、日本印度学仏教学会、2008年)

福士慈稔「十二世紀末までの日本各宗に於ける朝鮮仏教の影響について」(『身延山大学仏教学部紀要』8、身延山大学仏教学部、2007年)

〔学会発表〕(計11件)

福士慈稔「十二世紀末までの日本天台宗の新羅仏教認識について」(日本印度学仏教学会、大谷大学、2009年9月)

福士慈稔「12世紀末までの真言宗諸師章疏にみられる新羅・高麗仏教認識について」(日蓮宗教学研究発表大会、日蓮宗宗務院、2009年、10月)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

福士慈稔 (フクシジニン)

研究者番号: 80250041

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号: